

## 旧石器時代の石器石材

石器製作は、人類史上、最古のハイテクです。石器に残された情報は、当時の暮らしを解明する上での良い手掛かりとなりますが、特に、石器石材は、現在、旧石器時代研究の大きなテーマのひとつとなっています。

旧石器時代の石器石材には、硬く、きめ細かく均質で素直に割れるという特性があります。市内には石材の原産地が所在し、諸沢川、久慈川、那珂川などの河原におりると、トロトロ石（デイサイト）、ガラス質黒色安山岩、メノウ、珪質頁岩などの石器の石材が簡単に拾えます。

また、河川の流域には、これらの石材の使用を物語る遺跡が数多くみられ、中でも、久慈川流域の山方遺



考古部会専門調査員 橋本 勝雄 氏  
(公益財団法人千葉県教育振興財団 上席文化財主事)

跡(写真)と梶巾遺跡は、全国的に広く知られています。

言わば、市の特産品というべきこれらの石材は、千葉県、茨城県南部、埼玉県の一部（大宮台地）などの、身近に石器製作に適した石材が、ほとんどない地域(消費地)に大量に運び込まれ、盛んに使われていました(図1)。

このような石材研究のほかに、旧石器時代には、さまざまなテーマがあり話は尽きませんが、奥が深いために今回は、ほんのさわりにとどめました。市民の皆さんには調査にご協力くださるようよろしくお願いします。

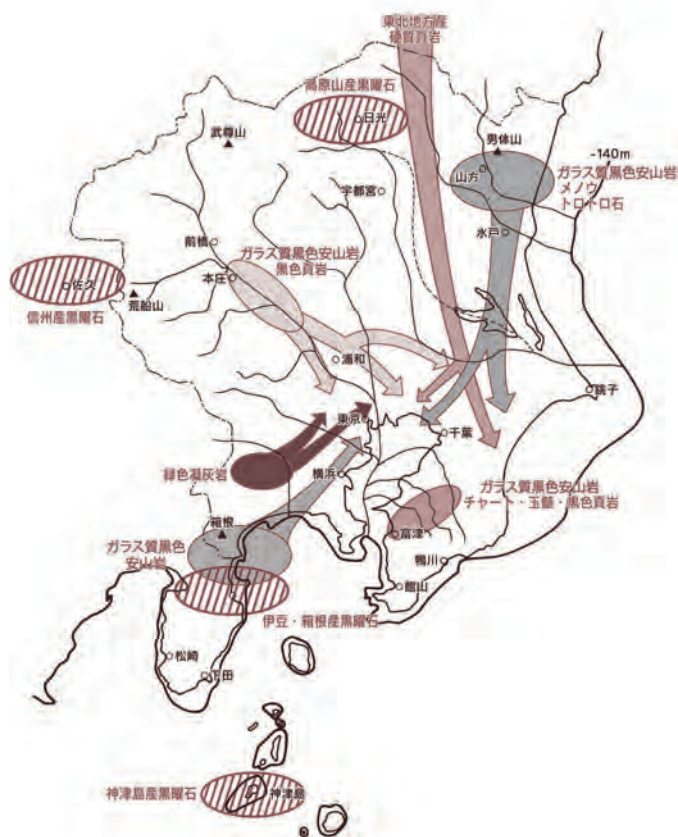


図1 関東地方の石器石材の流れ  
(八街市郷土資料館提供)



山方遺跡採集の石器  
(瀬尾繁喜氏寄贈)  
(市歴史民俗資料館山方館所蔵、高さ 10.6cm)